

# 思いをつつなく 〜全国大会までの軌跡〜

念願の全国高校駅伝大会出場：その裏には部員一人ひとりの努力と苦楽を共にし励ましあってきた仲間たちの存在。そして、部員たちを見守る家族や友人、地域の人々の支えがあります。

## 臥薪嘗胆

近年、県内の高校駅伝大会では常に上位の成績を取めている松浦高校陸上部。しかし、あとわずかこのころで、常勝軍団諫早高校の牙城を崩すことのできない悔しい思いを続けてきました。

そこで、2012年度に掲げたチームのキャッチフレーズは「臥薪嘗胆」。あこがれの都大路を走るために、自らに試練を課し、厳しい練習にも耐え抜き、これまで以上に努力していくことをチーム全員で誓いました。

## 歴史が動く

松浦高校陸上部の歴史は、今から13年前の2000年に一人の先生が赴任してきたことから大きく動き出します。その人物こそ現在の陸上部の監督を務める澤田洋先生です。

澤田先生は奥さんと共に陸上部の寮を管理し、部員と寝食を共にしながら選手を育てていく指導スタイル

を実践しています。

その成果は赴任1年目にして早くも表れました。県高校駅伝競走大会において、前年28位だったチームが、5位入賞を果たし、翌年には準優勝。その後の大会も入賞を続け、駅伝以外の陸上競技でも九州や全国で活躍する選手を輩出するなど、瞬く間に県内高校陸上界の実力校へと成長しました。

## 小浜の借りは小浜で返す

県高校駅伝競走大会は、毎年、雲仙市小浜町で開催されています。

順調に実力を付けてきた松浦高校陸上部。2011年の大会では、優勝候補の筆頭とまで言われるようになりました。今年こそはと挑んだこの大会：ところが、主力選手の故障、チーム内の動揺、消極的な采配など負の連鎖が続き、不完全燃焼のまま3位という苦い結果に終わりました。このときチーム内に一つの合言葉が生まれました：「小浜の借りは小浜で返す」。陸上部は熱い思いを胸に1年後の大会に向けて動き出しました。

## 雑草集団の意地

自らを雑草集団と呼ぶ松浦高校陸上部。泥くさく、粘り強くひた向きに練習に励みました。

部員たちは全員が寮で共同生活を送っています。部員たちの一日は午前

5時20分の起床から始まります。練習は毎日早朝と放課後に行い、寮に帰宅してから夕食後のミーティングを日課とするなど、努力を惜しまず、人一倍に練習を積み重ねてきました。

目指すは全国大会、あこがれの京都「都大路」を走るために。

## 我ら松高いざ出陣！

11月6日に行われた県高校駅伝競走大会には、豊富な練習量に裏付けされた自信と最高のコンディションを保っての出場となりました。

1区のスタートラインに立ったのは主将の坂本君。区間賞の走りでもチームに勢いを付けるとその後の区間も他を寄せ付けない全区間区間賞の走りを見せ、完全優勝での全国大会出場を決めました。また、11月18日に行われた全九州高校駅伝大会では、県大会の記録を3分以上縮める2時間8分23秒の走り、強豪ひしめく九州地区で5位に入賞しました。



◀ 県高校駅伝大会で優勝のゴールテープを切る松村君 (毎日新聞社提供)

苦楽を共に — 寮での共同生活 —

現在、陸上部の部員は市外出身の部員はもちろん、市内出身の部員も寮で共同生活を送っています。そして、部員の生活において最も重要な食生活を支える「お母さん」の役割を果たしているのが、澤田監督の奥さんです。

澤田監督の奥さんに、部員たちの普段の様子などを聞いてみました。

Q 部員たちの普段の様子は？

A みんな素直で、食事の配膳なども当番で手伝ってくれますし、食事も全部残さず食べてくれます。

普段は本当に普通の高校生ですが、試合になるとガラリと変わりますね。

Q 部員たちの食生活で気を付けていることは？

A 夕食については主食・副食2品・お吸い物・果物で構成し、常に栄養バランスを考えて作っています。特に貧血は故障の原因になるので、鉄分は栄養補助食品も含め、よく取らせるようにしています。

また、毎日の練習量や季節ごとの気温の変化などを踏まえ必要なものを取り入れています。

例えば10月からは生姜湯を飲ませており、お陰で大きな風邪はひ

いていません。

Q 生活面でのアドバイスは？

A 両親や周囲の人へ常に感謝の気持ちを持つよう言っています。

全国大会出場を多くの人に喜んでもらい、たくさん応援や寄付をいただいたことで、部員たちも多くの人から支えられていることを身にしみて感じているようです。

Q 部員たちの健康管理で心掛けていることは？

A 健康面では万全の状態で行けるよう、できるだけ事をしめてあげたいと思っています。

そして、いつの試合でも悔いの残らぬように、気負うことなく自分の走りをしてもらえるよう願っています。



(松浦高校陸上部提供)

地域も応援！ — 陸上部をバックアップ —

今回の全国大会出場をバックアップしようとして、松浦高校陸上部には多くの寄付が寄せられました。

お米や栄養ドリンク、果物などが保護者・卒業生などから贈られたほか、JAながさき西海農協からは、ひのひかり米300<sup>キ</sup>と長崎和牛10<sup>キ</sup>が松浦高校陸上部へ贈られました。

また、志佐商工振興会は12月1日〜20日まで、まちなかワゴン参加店に「松高応援募金箱」を設置して募金を募りました。

12月7日には「キラリ松浦高校陸上部まちなか応援市」が松浦中央公園で開催され、応援市では1口100円以上の応援寄付をした人に温かいおでんやせんざいが配られ、会場には帰宅途中の高校生や会社員など多くの皆さんが駆け付けました。



保護者会会長 宮本 秀徳 さん

今回の全国大会出場に、「良かったね」「頑張ったね」「寄付はどうしたらいいの？」と多くの市民の皆さま・卒業生から声を掛

市でも、教育委員会を中心に市民の皆さんと一緒に松浦高校陸上部を応援するための各種事業を実施しました。庁舎への懸垂幕設置や募金の受付、のぼり旗の作成と設置、スクリーンを使ったレース当日の駅伝観戦など、松浦高校および後援会と連携しながら陸上部の応援を行いました。



けていただきました。また、寄付についてもたくさんの方の問い合わせをいただき、地域のみなさんの期待と支援の心を強く感じました。ありがとうございました。ご支援をいただいた皆さまのおかげで、選手たちも、あこがれの舞台上で全力を出し切れたと思います。